

<小児の救急>けいれん

「けいれん」とは、いわゆる「ひきつけ」とほとんど同じものです。からだ全体やからだの一部がつっぱったり、ピクピクしたり、脱力したりします。また、白目になっていたり、ボヤッとした目になっていて、呼びかけても反応がなかったりします。

「けいれん」と聞くと、成人の世界では、めったに出会うことがないし、重い疾患のイメージが強いと思います。ところが、小児は神経系が未発達のため「けいれん」を起こしやすいのです。でも、心配することはありません。そのほとんどは「熱性けいれん」という38度以上の発熱に伴って認める「けいれん」で、発作時間は短く、後遺症はほとんどないと考えられています。

次に、けいれんが突然、起きたときの正しい対処法を紹介します。1) まず、あわてないで「けいれん」が何分続くか時間をはかる。2) 嘔吐することがあるので、顔を横に向ける。3) きつい衣服を着ていたら、衣服をゆるめる。4) けいれんの動きが、左右対称かどうかを確認する。5) 口の中に、指や物を入れない。

もちろん、自分の子供が目の前で「けいれん」を起こしている時に、冷静に時間をはかることは、なかなかできません。しかし、下に記載しましたが「けいれん」が5分以上続いた場合には救急外来を受診したほうがよいので、発作時間は大事な情報なのです。

「けいれん」が1回だけであり、しかも5分以内に止まり、いったん目を開けて周囲の呼びかけに反応したり、泣いたりした時は、救急外来を受診せずに、自宅で様子を見ていても大丈夫です。逆に、早めに救急外来を受診した方がよい時としては、1) 初めて「けいれん」を起こした。2) 「けいれん」が5分以上続いた。3) 「けいれん」の後、1時間以上たっても反応がない(=意識がもどらない)。4) 「けいれん」の後に繰り返して吐く。5) 「けいれん」の後に意識がもどらないうちに、また「けいれん」が起こった。6) 半日に2回以上「けいれん」が起こる。7) 手や足の「けいれん」が左右で対称的でない。

頻度は少ないのですが、発熱がないのに「けいれん」を起こすことがあります。その場合は「てんかん」という疾患の可能性があるので、小児科の受診が必要です。しかし、救急外来受診の目安は、上に記載したものと同じです。「けいれん」が1回だけで、5分以内に止まり、1時間以内に意識がもどるようであれば、通常の診療時間内の受診でかまいません。

【臨床検査科診療部長兼小児科診療部長 針谷晃】



